

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和4年12月12日

施設名	高知県立埋蔵文化財センター	所管課	高知県文化生活スポーツ部 歴史文化財課
-----	---------------	-----	------------------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
施設所在地	南国市篠原1437-1		
事業内容	○施設管理(埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行う) ○出土文化財等資料管理(出土遺物を適切に保管・管理し県内外からの依頼に応じて貸出等を行う) ○広報普及(発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開することにより埋蔵文化財に対する保護の推進と普及啓発を図る)		
施設内容	○面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など 面積:本館(1,038.68㎡) 北館(518.40㎡) 南館(1,045.92㎡) 収蔵庫(1,527.52㎡) 展示室(51.63㎡) 開館時間:午前9時～午後5時 休館日:土・日・祝祭日、12月29日～1月3日 (巡回展の期間中及び公開講座等開催日の日・祝祭日は開館) 利用料金:無料		
職員体制	常勤職員: 6名(管理職1名、県派遣職員4名、財団事務職員1名)		

2 収支の状況

単位:千円

		令和2年度(決算)	令和3年度(決算)	令和4年度(予算)
収入	県支出金	39,016	39,613	45,814
	補助金等収入	1,672	1,800	
	その他	233	383	39
	収入計 (a)	40,921	41,796	45,853
支出	事業費	8,927	9,405	7,582
	管理運営費	14,174	13,784	14,358
	人件費	17,820	18,607	23,913
	その他	0	0	
	支出計 (b)	40,921	41,796	45,853
収支差額 (a) - (b)		0	0	0

3 利用状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	3,947	3,441	3,700
②利用者意見等の反映	<p>○利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) 展示企画や関連行事、公開講座への参加者に対しその都度アンケートを実施することで意見や感想の収集及びニーズの把握に努めた。 回答数3,235(館外での講座を含む)</p> <p>○利用者意見等を踏まえた対策 ・アンケート結果を当該年度事業の各種講座等の企画を立案する際の参考とし、例えば、子ども達の来館が集中する夏の時期に子ども向けに展示解説や実際の土器や石器に触れるコーナーを設置した。</p> <p>○その他(以下は、アンケートの一部) ・山城への関心が強くなった。それぞれの土地で歴史を感じることができるような講座をこれからも計画して頂きたい。 ・城について通常ではあまり聞けない専門性のある話で参考になった。 ・今回の学習で歴史に興味を持ったという子どもが何人もいた。学習で分かっているも実際に見聞きすると深き理解できると思う。 ・もっと子どもが活動できる内容にして欲しかった。 ・昔の人もこんなふうには布を作っていたらどうか、と想像しながら編みました。 ・勾玉の話は、小学生には言葉が難しかったので、もう少しかみ砕いた優しい言葉の方が食いつくと思います。 ・親子で火起こしができ多かったので良かったです。勾玉も実際に作りながら聞くと理解できるのでいいと思いました。 ・地域展として、貴重な資料を見ることができて良かった。 ・非常に丁寧な説明で内容も良かったので、説明にマイク・スピーカーを使って欲しいところもありました。</p>		
③その他特記事項	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、GW中の体験企画とまいぶんセンターまつりを中止し、6/13、8/22、8/29を臨時休館とした。		

4 令和3年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	<p>○協定書、事業計画書の内容に従って概ね適正な管理が行われた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は適正に行われていた。</p> <p>○有事を想定し消防計画を基に訓練を実施し利用者の安全確保に努めた。</p> <p>○作業日を設定して職員による植栽管理や日常的な館内の環境維持に努めていたが、一方で、廃棄物の排出事業者として処理に関する認識が不十分であったため産業廃棄物として分別すべきを一般廃棄物として誤った処理を行っていた。</p>
②利用者サービスの維持向上	<p>○講座の一部(動画)や特別展で配布した記念誌をホームページ上で公開。</p> <p>○アンケートを活用し講座内容の検証に努めた。</p> <p>○埋蔵文化財センターの特質である専門性の高い講座と、楽しみながら遺跡や考古学、高知県の歴史が学べるわかり易い講座を開催した。</p> <p>○収蔵物への問合せに対応するため、これまでに実施してきた膨大な発掘調査成果である出土遺物を再接合し、一覧表の作成や図面及び図書等の資料の整理作業を実施した。</p>
③利用実績	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で休館の際、予定していた講座等を可能な限り日程調整のうえ開催し、やむなく中止する場合にも内容等をホームページで配信した。開館に際しては十分な防止対策を講じていた。</p> <p>○広報普及事業の中核である出前考古学教室は、小学校60校(2,316人)を対象として出土遺物を「見て」「触れる」機会を提供し、夏休み期間中の親子考古学教室(30回(921人参加))の開催は、考古学や歴史への興味・関心を喚起する切っ掛け作りとなり、いずれも好評であった。</p> <p>○地域の歴史に対する興味と関心を高めるために黒潮町教育委員会と連携し、町内での発掘調査成果を展示やパンフレット作成による紹介、ワークショップ、講演会、公開講座等の地域展を開催した。</p> <p>○出土遺物を県内外博物館9件と資料調査のため研究機関に12件を貸出した。また、学校や団体等の活動に火起こしや勾玉づくりの体験ができる道具の貸出しを行った。</p>
④収支の状況	高知県からの指定管理代行料に加え、文化庁の国庫補助金を活用するとともに経費の節減に努め、業務に要する適正な経費を支出後は残額を県に精算返納した。
総合評価	<p>B</p> <p>○施設館内の維持管理は概ね適正に実施できていた。</p> <p>○廃棄物の誤処理について、職員が廃棄物を理解する機会を設け分別の徹底や廃棄方法を変更し、事務所全体として再発防止に取り組む意識が感じられた。</p> <p>○地道な活動を通して入館者確保に努めその成果は見られたが、更に利用者目線を意識したサービスを努めていく事が重要である。</p> <p>○テーマ設定に基づく展示企画とそれと関連する講演会やシンポジウム等の内容の精選と充実を図り利用者から好評であった。</p> <p>○埋蔵文化財センターの設置目的である埋蔵文化財への理解と保護を目指し、情報発信と各種企画展、各種講座、出土遺物を実際に「見せて」「触れる」ことができるセンターを持つ特色を活用し、施設利用者の確保や埋蔵文化財の普及啓発に努めていることは高く評価できる。一方、飲料水ペットボトルや蛍光灯等の産業廃棄物を一般廃棄物(不燃物)として誤処理しており廃棄物処理に関する認識が十分ではなかった。</p>

【評価の目安】
A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの